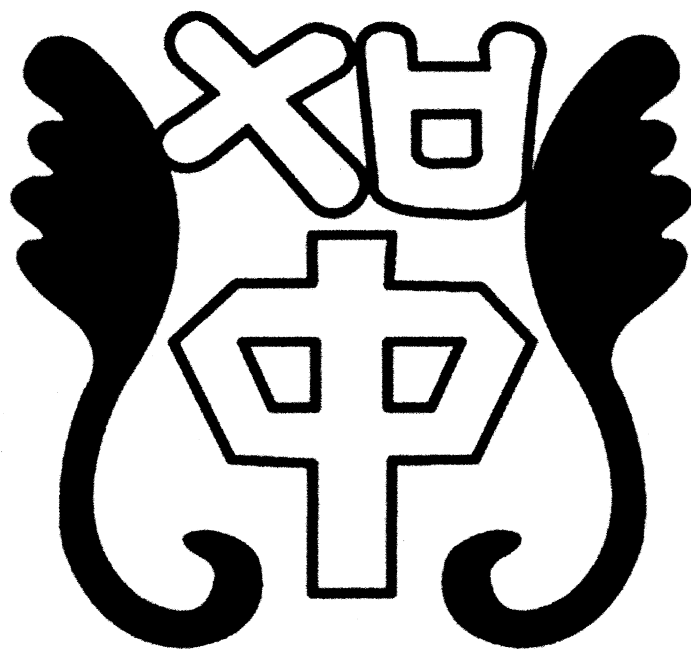


学習評価について



千葉市立加曽利中学校

1 目的

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものです。「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確にとらえ、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って、次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要です。この学習評価について、学校と家庭、教師と生徒の間の共通理解を図ることを目的として作成しました。

2 評価の方法

(1) 評価規準（到達すべき目標）

国立教育政策研究所教育課程研究センター等の資料をもとに、各教科部会で作成した「指導・評価計画」に基づくものとします。ただし、実践を通して常に生徒の実態に応じて検討と改善を重ねていきます。

(2) 評価基準（評価規準に対しての、具体的な指標）

通知表及び指導要録に記載する評価を行う場合は、「指導・評価計画」に基づいて、その達成の程度に応じた評価基準を設定します。

(3) 観点別学習状況の評価

新学習指導要領では、各教科3つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」により、到達状況を次の3段階で評価します。

A：十分満足できると判断されるもの

B：おおむね満足できると判断されるもの

C：努力を要すると判断されるもの

<主体的に学習に取り組む態度>

「主体的に学習に取り組む態度」については、①知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。

<知識・技能、思考・判断・表現>

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、観点の状況を踏まえた上で評価を行います。

(4) 評定

観点別学習状況の評価を補完するものとして、学習指導要領に示す目標に照らしてその到達状況を評定します。評定は以下のような5段階とします。

5：十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの

4：十分満足できると判断されるもの

3：おおむね満足できると判断されるもの

2：努力を要すると判断されるもの

1：一層努力を要すると判断されるもの

(5) 各観点の組み合わせと評定との関係

評定	3観点の組み合わせ
5	AAA
4	AAB
3	ABB ABC BBB BBC
2	BCC
1	CCC

【観点別学習状況を得点化した場合の評価基準（原則）】 *1つの観点を100点満点とした場合

A：80点程度 B：30点以上～80点程度 C：30点未満

3 評価の方法

(例)

	テスト	小テスト	授業	小テスト	テスト	換算	評価
知識・技能	52/60	20/30			50/60	122/150 81%	A
思考・判断・表現	20/40		6/10	12/20	10/40	48/110 44%	B
主体的に学習に 取り組む態度		8/10	8/10	5/10		21/30 70%	B

学習評価 国語科

1. 目標

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしていくしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト等	○	○		[Ⅰ] 語句の意味や文法について正確に理解し、それを適切に用いることができる。また、書写等を通し、正しく字を書くことができる。 [Ⅱ] 文章の内容を正確に読み取り、設問に対して適切に解答することができる。 [Ⅱ] 指定された条件に従い、作文の書き方を踏まえて正確に文章を綴ることができる。 [Ⅱ] 放送の音声を正確に聞き取り、設問に対して適切に解答することができる。
ノート類 演習プリント等	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 黒板の内容だけではなく、自ら気付いたことや調べたことをまとめている。また、自分の理解度に合わせて主体的に知識・技能を身に付けようとしている。 [Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 読んだ単元の内容を適切に理解し、評価できる。また、学習した文法を正しく理解し、設問に応じてその知識を活用できる。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えをその場に応じた形で工夫して表現しようとしている。
スピーチ・朗読等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] 話題の提示方法や表現の仕方を工夫しながらテーマに即して話したり、目的や場面に応じて適切な音量や抑揚で話したりすることができる。
課題作文・創作等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] テーマや書きたいことに応じて、構成や表現を工夫して作文や韻文等を書くことができる。

学習評価 社会科

1. 目標

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治経済、国際関係などを理解できるようにする。
- (2) 調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるようにする。
- (3) 社会的事象を多面的・多角的に考察し、課題解決に向けて選択・判断したりする力を養う。
- (4) よりよい社会の実現をもとに、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土と歴史、現代の政治経済、国際関係などに関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ] 社会的事象や人物名などの語句を正確に理解し、それを適切に用いることができる。 [Ⅰ] 資料から情報を読み取り、その内容を適切に解答することができる。 [Ⅱ] 社会的事象の意味や意義、その相互の関連性を正しく表現することができる。
ノート類		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] 黒板の内容だけではなく、自ら気付いたことや調べたことをまとめている。また、自分の理解度に合わせて主体的に知識・技能を身に付けようとしている。
活動中の様子		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] 学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えをその場に合った形で工夫して表現しようとしている。
小テスト	○			[Ⅰ] 都道府県や生産量の統計など、社会的事象を理解するうえで必要な知識を理解することができる。
課題レポートなどの成果物	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] テーマに応じて、構成や表現を工夫してレポートなどの成果物を作成することができる。

学習評価 数学

1. 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト等	○	○		[Ⅰ] 数学的な用語、数学的な概念を理解している。 [Ⅰ] 基本的な計算ができる。また、関数のグラフ化や、データを表に整理できる。 [Ⅱ] 数量の関係や法則や図形の性質を捉え考察できる。 [Ⅱ] 数量に関数関係を見出し、表や式やグラフで考察できる。 [Ⅱ] データの分布に着目して、その傾向や事象の起こりやすさについて考察できる。
ノート類 演習プリント等	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 黒板の内容だけではなく、自ら気付いたことや調べたことをまとめている。また、自分の理解度に合わせて主体的に知識・技能を身に付けようとしている。 [Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学習した内容を利用して、設問に応じて問題を解くことができる。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えをその場に応じた形で工夫して表現しようとしている。
振り返り		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] 単元ごとに学習した内容において、大切なポイントを抑えることができる。また、既習の内容との繋がりを見出し、次節に生かすきっかけとすることができる。

学習評価 理科

1. 目標

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ]自然の事物・現象について正確に理解し、それを適切に用いることができる。 [Ⅱ]文章の内容を正確に読み取り、設問に対して適切に解答することができる。 [Ⅱ]指定された条件に従い、自然の事物・現象について適切に説明できる。 [Ⅱ]設問の内容を適切に理解し、図やグラフ、計算式などを用いて正確に解答することができる。
演習プリント等	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 黒板の内容だけではなく、自ら気付いたことや調べたことをまとめている。また、自分の理解度に合わせて主体的に知識・技能を身に付けようとしている。 [Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学習した内容を適切に理解し、評価できる。また、学習した事物・現象を正しく理解し、設問に応じてその知識を活用できる。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えを工夫して表現しようとしている。
小テスト等	○		○	[Ⅰ・Ⅲ] 学習した事物・現象や、実験方法などについて適切に理解し、主体的に探求しようとしている。
自由研究等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] テーマや実験内容に応じて、グラフや写真など資料を活用し、実験結果を論述することができる。

学習評価 音楽科

1. 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や背景など の関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価したりしながらよさや美しさを味わって聴いている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ] 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 [Ⅱ] 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え説明できる。
技能テスト	○			[Ⅰ] 音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
プリント等		○	○	[Ⅱ] 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲のよさや美しさを味わって聴いている。 [Ⅲ] 用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えをその場に応じた形で工夫して表現しようとしている。
振り返り等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] 单元ごとに学習した内容において、大切なポイントを抑えることができる。また、既習の内容との繋がりを見出し、次節に生かすきっかけとすることができる。

学習評価 美術科

1. 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創作活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象をとらえる造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術分野に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
授業への取組	○	○	○	[Ⅰ]材料や用具の特性などから制作の順序を考え、見通しをもって表している。 [Ⅱ]造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と造形的なテーマや工夫などを考え、美意識を高め見方や感じ方を深めている。 [Ⅲ]美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。
ワークシート		○	○	[Ⅱ]造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と造形的なテーマや工夫などを考え、美意識を高め見方や感じ方を深めている。 [Ⅲ]美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
アイデアスケッチ	○	○		[Ⅰ]形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 [Ⅱ]全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
振り返りシート		○	○	[Ⅱ]材料や用具の特性などから制作の順序など考えながら、見通しをもって表している。 [Ⅲ]美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。
完成作品	○	○		[Ⅰ]材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 [Ⅱ]全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。

学習評価 保健体育科

1. 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力を育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けようとしている。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えようとしている。	生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営もうとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ]各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、健康・安全の留意点についての具体的な方法を理解している。 [Ⅱ]課題に対し、適切な言葉で説明できる。
技能テスト	○			[Ⅰ]基本的な技能を身に付けている。
学習カード プリント等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ]自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫している。 [Ⅱ・Ⅲ]学習カードで自らの課題を把握し、解決に向けた具体的な考えを述べている。また、保健学習を実生活に結び付けられている。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ]学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えをその場に応じた形で工夫して表現しようとしている。

学習評価 技術・家庭科（技術分野）

1. 目標

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ] 語句について理解し、説明することができる。 [Ⅰ] 技術に関わる数量について、計算し割り出すことができる。 [Ⅱ] 製品や生活に関わる問題点を把握し、改善を図るための手段を選択することができる。
作品の取り組み・評価	○	○	○	[Ⅰ] 作品の製作に関して、適切な作業を行うことができる。 [Ⅱ] 作品の製作に関して、使用目的を明確にし、それに応じた製品の設計や構想を表現することができる。 [Ⅲ] 作品の製作に対して主体的に取り組む、工夫や改善をしようとしている。
技能テスト	○			[Ⅰ] 作業の正しい手順を理解し、正確な作業を行うことができる。
レポート		○	○	[Ⅱ] 生活や社会の中の課題を設定し、具体的な原因や改善方法について正しく考察し、表現することができる。 [Ⅲ] 生活や社会の中の課題を設定し、原因や改善方法について考察し、よりよい生活を送ろうとする姿勢が見られる。
プリント・ノート			○	[Ⅲ] 授業や板書をもとに、生活や社会を改善していこうという姿勢が記述から読み取ることができる。
振り返りシート			○	[Ⅲ] 授業の振り返りの中で学んだことを整理し、次回の授業でより主体的な学習や活動を行おうという姿勢が見られる。

学習評価 技術・家庭（家庭分野）

1. 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表すなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実践に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ・Ⅱ]家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な知識が身に付いている。
学習プリント等	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ]問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力が身に付いている。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ]学んだことを理解し、それらを踏まえて自らの考えをその場に応じた形で工夫して表現しようとしている。
課題・作品			○	[Ⅲ]生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 [Ⅲ]課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

学習評価 英語

1. 目標

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

2. 評価の観点と規準

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようとしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしようとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

3. 想定する主な評価の場面および取組のポイント

場面	観点			取組のポイント
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
定期テスト	○	○		[Ⅰ] 語句の意味や文法について正確に理解し、それを適切に用いることができる。 [Ⅱ] 文章の内容を正確に読み取り、設問に対して適切に解答することができる。 [Ⅱ] 指定された条件に従い、英語のルールを踏まえて正確に文章を書くことができる。 [Ⅱ] 放送の音声を正確に聞き取り、設問に対して適切に解答することができる。
ノート類 演習プリント等	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 黒板の内容だけではなく、自ら気付いたことや調べたことをまとめている。また、自分の理解度に合わせて主体的に知識・技能を身に付けようとしている。 [Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学習した単元の内容を理解し、表現できる。また、学習した文法を正しく理解し、設問に応じてその知識を活用できる。
活動中の様子	○	○	○	[Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ] 学んだ内容を正しく理解し、それを踏まえて自らの考えをその場に応じた形で工夫して表現しようとしている。
スピーチ・インタビュー等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] 話題の提示方法や表現の仕方を工夫しながらテーマに即して話したり、目的や場面に応じて聞き手を意識しながら話したり発表したりすることができる。
英作文・プレゼンテーション等		○	○	[Ⅱ・Ⅲ] テーマや書きたいことに応じて、構成や表現を工夫して英作文やプレゼンテーション等を作成することができる。